

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症 例 概 要 利用者氏名:90代 女性 / 介護度：要介護5

病 名:左大腿骨頸部骨折の術後

利用サービス:入所

経 過:自宅で暮らされていたがR8年初め頃より左膝痛見られるようになり、段々と歩けなくなっていった。自費ヘルパーや家政婦など利用していたが認知症も進行し家族の介護負担も増していった。R8年3月中旬、自宅退所を目指して当老健に入所となった。

内 容

元々自宅で次男と二人暮らしされていた方。自宅で転倒受傷し、左大腿骨頸部骨折術を受ける。ねりま健育会病院へ転院し、リハビリテーション加療後、自宅退所を目指してライフサポートねりまへ入所。起居・移乗、車椅子移動・入浴など生活全般に全介助が必要な状態であった。臀部に褥瘡あり。尿便意の訴えはなく、立ち上がり重介助であったため、入所当初はトイレには行かずオムツ使用しパッド交換で対応していた。

また食事は拒否傾向あり、水分以外ほとんど摂取できない状況がしばらく続いていた。表情は乏しく、笑顔見られることはほとんどなく、口腔ケアや内服、パッド交換、褥瘡処置などもあらゆる介助場面に対して声を上げて激しく拒否されていた。

その中でもまず食事ができるように、パン食が好きであるという情報から主食は毎食パン対応とした。また、ご家族からの差し入れ、補助食品をつけるなど食事支援計画を立てた。徐々に食事摂取量が増えていき、臀部褥瘡は治癒した。

スタッフ全体でご本人のペースに合わせた親身な対応を実践することで、介護拒否は全く見られなくなった。身体機能向上し、接触介助にも拒否が無くなったことでトイレ排泄ができるようになり、尿便意の訴えは無いが、トイレ定時誘導でトイレ排泄ができるようになった。

そして、ご家族が持参された音声付きのぬいぐるみを使って積極的に挨拶をするなど、コミュニケーションについても介入の工夫をしたところ、介入拒否が無くなっただけでなく、明らかに表情は明るくな

り時折声に出して挨拶を返していただけるようにもなり、入所当初では考えられないほど穏やかに過ごされている。

入所から3ヶ月が経過しご家族の希望もあり、R8年6月中旬に当初の目標としていた自宅退所となる。